

所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻 修士課程	修了年度	2020 年度
氏名	王 ロセン	指導教員 (主査)	菅生 早千江

論文題目	中国人上級日本語学習者の役割語の認識
------	--------------------

本文概要	
<p>1. 研究背景と研究目的</p> <p>「役割語」は金水敏（2003：205）によって以下のように定義されている。</p> <p>ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる時、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。</p> <p>日本語は役割語が発達した言語と言われている。</p> <p>役割語の概念が金水（2003）によって提唱されて以来、日本語学習者を対象に役割語の理解を調査した研究は、近年いくつかなされてきた。しかし、日本語学習者の中で中国語を母語とする学習者数が一位を占めているにもかかわらず、中国語母語話者を対象とした役割語の研究は、管見の限り見当たらない。中国語にも役割語が存在するが、日本語ほど発達していない。そこで本研究では、中国語を母語とする日本語学習者の役割語の認識を明らかにすることを目的とした。</p> <p>2. 研究課題</p> <p>1：中国語を母語とする日本語学習者の役割語の理解は日本のアニメ・マンガ・ドラマ・小説などのポップカルチャーとの接触に関するか。</p> <p>2：中国語を母語とする日本語学習者は終助詞の「ぞ」「わ」の喚起イメージが性別と結びつき、固定化しているか。</p> <p>3：中国語を母語とする日本語学習者にとって特徴的なマーカーを持たない役割語は何か。</p> <p>4：中国語を母語とする日本語学習者の「おたく的傾向」は役割語の理解に関するか。</p> <p>3. 研究方法</p> <p>中国の大学、大学院に通う日本語能力試験でN1、N2に合格している、10代から20代の中国語を母語とする日本語学科の学生23名、うち男性4名、女性19名を対象として、アンケート調査を実施した。アンケートは、研究課題に対応させて大きく「おたく尺度」「授業外の日本語との接触」「イラスト問題」「性別問題」の4つのパートから構成されている。比較対象として、中国人学習者と同じく10代から20代の日本語母語話者12名にも「イラスト問題」と「性別問題」の調査を実施した。「イラスト問題」に用いた役割語は「おいら」「それがし」「ですな」「わらわ」「おる」「わちき」「自分」「じゃ」「失敬」「であります」「ですか」「である」「よのう」「ですこと」「っす」「ごあます」「あたい」「だ」の18語である。「性別問題」に用いた役割語は「よ」「ぞ」「わ」の3語である。</p>	

4. 結果と考察

結果として、研究課題1については、「役割語の理解はポップカルチャーとの接触に関係があると考えられる」ことを質的に分析して報告した。研究課題2については、中国語を母語とする日本語学習者は男性中心終助詞である「ぞ」と女性中心終助詞である「わ」の喚起イメージが性別と結びつき、固定化している可能性があることを統計的に示した。研究課題3についても、先行研究で報告されていた「ますかな」が、中国日本語学習者にとっても特徴的なマーカーを持たない役割語である可能性を、統計的な検証を踏まえて述べた。加えて、性別に関して特徴的なマーカーを持たない役割語と属性に関して特徴的なマーカーを持たない役割語が何であるかを報告した。研究課題4については、「おたたく的傾向と役割語の理解に関係があると考えられる」ことを、質的に分析して報告した。

それぞれの結果について、対象者のポップカルチャーとの接触の媒体、中国で使用されている日本語教科書の女性文末詞の使用傾向、中国語の役割語の影響等に言及し考察した。

5. 今後の課題

今後はインタビュー調査を併用するなど、質問紙調査を補完することの必要性について述べた。

6. 教育への示唆

女性用語としての「わ」を教える同時に、下降イントネーションの「わ」も教えた方が、学習者が日本の作品や人と接触する時の誤解の減少につながる。文法や語彙を教えるだけでなく、役割語の説明も学習項目に含めることについて言及した。